

令和7年度 第2回苫小牧市男女平等参画審議会会議録（概要）

- 1 日 時 令和8年2月2日(月) 15時00分～16時07分
- 2 場 所 男女平等参画推進センター 講習室A
- 3 出席者 審議会委員 10名
男女平等参画推進センター 2名
総合政策部協働・男女平等参画室
(総合政策部長、室長、主幹、主査、主事 計5名)
- 4 傍聴人 1名
- 5 記 者 1名
- 6 会議次第
(1) 開会 (2) 苫小牧市男女平等参画都市宣言文唱和
(3) 議事 (4) 閉会
- 7 議事概要

(議題1) 令和7年度男女平等参画に関する取組

事務局より、資料(1 令和7年度男女平等参画に関する取組)について説明。

【意見1】

女性の職場での活躍だったりそういう文脈を語るときに、男性の家庭進出っていうのは避けて通れないものです。その中で苫小牧市ってすごく積極的にやってくださっている印象がありますけれども、広島県で男性の家庭参画っていう文脈を条例にしようという動きが一時期出てきまして。確か廃案になったと記憶をしているところです。ただ、苫小牧市でも条例化であったりとか今後一つ検討の材料として置いていただいてもいいのではないかと思っております。

【質問1】

あえて女性から選ばれる職場プロジェクトっていう名前にした理由って何でしょうか。

【事務局回答】

設置経緯に記載のとおり国の方で、女性に選ばれる、女性が活躍できる地域

作りというのは、骨太の方針の中で示されている言葉でありましてそこに基づいております。

【質問 2】

1 1月に行われる女性に対する暴力をなくす運動期間はDVのことを主に指していると思うのですが、男性から女性に対する暴力だけではなく、近年は逆のパターンも増えてきていると感じます。

例えば、配偶者に対する暴力をなくすって言葉ぐらいに変えられないのかなと思いました。

【事務局回答】

女性に対する暴力をなくす運動期間というネーミングは、国の方で定められたものでありますが、国の方でも性別に関わらず暴力は許されるものではないと断りを入れた上で、DV被害が女性に多い現状などに対して、取り組む必要があるとされています。

【意見 2】

男女平等ってずっと言われ続けている言葉ですけど、ちょっと引つかかるなっていうのがあります。

ジェンダー平等という言葉がありますよね。ジェンダー平等は性差を超えてということで最近には主に使われ出していい、男女平等ではなくジェンダー平等っていうふうになっていく方が、抵抗なく自然じゃないかなと思いました。

(議題 2) 男女平等参画推進センター

事務局より、資料(2 男女平等参画推進センター)について説明。

【質問・意見なし】

(議題3) 令和8年度男女平等参画に関する取組予定

事務局より、資料(3 令和8年度男女平等参画に関する取組予定)について説明。

【質問1】

冊子の配布を小中に限定しているのはなぜですか。義務教育の観点から高校生とか大学生とかは対象ではなくってという考え方なのでしょうか。

【事務局回答】

令和5年度に市内小中学生に配布しており、まずは同様の取組をできたらと考えております。高校や専門学校等に対しては、LGBT出前授業の案内をしております。そうした場面で配布できるかと考えております。

【質問2】

冊子は小中学校に作って配るとして、例えば高校とか他のイベントとか機会があったら、配布することも考えてらっしゃるということですか。

【事務局回答】

はい、そのとおりです。

【質問3】

冊子を一般の人がどんなものか見てみたいから欲しいとなったとき、市役所とか交流センターみたいなどころに行ったら誰にでも手が届いて、誰でも目につくところにある。目につく場所に置くっていうのが前提で作られるものなのか、それともあえて小中学校限定としてやっていくのでしょうか。

【事務局回答】

配布に関しては、例えばにじいろ週間でパネル展を実施するときに、自由に持ち帰れるよう用意しておくであるとか、市役所の窓口に来ていただいたらお渡しできるとか、あとインターネット上での市のホームページで公表も考えているところでございます。

【質問4】

冊子を例えばコンビニとかに、ご自由にどうぞという感じで置くよりは、にじいろ週間とか限定された場所や、ホームページをこちらから見ないと、一般の方は目にできないっていう考え方でいいですか。

【事務局回答】

小売店等に広く置くことまで今のところはまだ考えておりませんが、市役所窓口であればいつでも対応できると考えております。

【質問 5】

例えばですけど私が個人的に活動するときにその冊子を他の方にも配りたい場合とかも、窓口に行くとき自由にいただけて、男女とかジェンダーとかそういう意識あるないに関係なく、いろんな方にお配りするっていうことは可能なものですか。

【事務局回答】

はい。大丈夫です。

【質問 6】

LGBT啓発冊子を出前授業で学校に配布しますということで、学校から依頼が来て、それで先生として職員さんが授業するっていうようなイメージなのですが、出前授業依頼がない学校ってどういうふうに使われるのですか。冊子を配るだけじゃなくて、意識浸透を図る施策っていうのをより充実させるのもっといいのかなと思いました。

【事務局回答】

LGBT出前授業のところですが、令和6年度から専門の当事者支援団体の方に講師をお願いしております。令和6年度は市内全ての中学校で実施されております。

今年度もすでに市内全ての中学校からお申込みいただいているところです。そうした場面で、性の多様性などについてしっかり説明がなされているというのが、LGBT出前授業の状況です。出前授業をやるやらないは学校の選択になりますが、2年連続全ての中学校で実施されています。小学校においても、令和4年度1校、5年度1校、6年度2校、7年度6校というふうに広がりを見せている状況です。

【質問 7】

こういうふうな冊子を作って小中学校に配布するということが、すごくいいなっていう感じがします。ただ小中学校ももちろん大切ですが、社会にこれから出ていく高校生の子たちにも何らかの形でやっていただければいいのかなという感想を持っています。気軽にちょっとつらい気持ちを言ったり、悩

みをつぶやくだけでもいいのですけれども、そういうふうな場所があればいいのかなっていう。若い子たちの心のサポートをしてあげたいなっていう気持ちがあるので、そこも取り組んでいただけたらいいなっていうふうに思います。

【事務局回答】

居場所づくりの取組では、先ほど説明しました男女平等参画推進センターにおいて実施しておりまして、通信制の高校も含めて市内すべての高校に居場所事業の案内をしております。センターからは、始めた当初は学校への案内時に、なかなか該当者はいないという反応であったものが、ここ1、2年では、気になる子がいるんだよねというように学校の受け止めも変わりつつあると聞いております。

【全体を通して】

【事務局】

委員の方から男女平等という表現について、ジェンダー平等のほうが良いのではという意見がありました。

私どもの組織名にも男女平等を使っており、平成25年に男女平等参画都市を宣言するなど、取組を加速してまいりまして、この言葉の認知度は他市に比べると進んでいるのかなと感じております。

いつか表現を変えることはあろうかと思いますが、男女平等という言葉が定着してきたかなというところで、今しばらくはこの言葉を使っていきたいというふうに考えているところです。

昨年度、審議会委員の皆様にもアンケートをとらせていただいて、協働・男女平等参画室という名称はわかりにくいですか、変えた方がいいですかという質問には、わかりやすいという言葉が多く、今しばらくこの表現を使っていきたいなと思ったところではありましたが、今改めて委員の方からお話があったので、ご意見お持ちの方、お聞かせいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

【委員】

その言葉自体が差別なのかは、人それぞれ感じ方もあり、思うところがあるので、あえて男女平等っていう言葉を使うことで、意識をする。男女の格差って今はもうほとんどないんじゃないのっていう中で、あえて男女の平等っていう言葉を使うことで、本当の意味での格差とか差別っていうものが伝わるのか

なというふうに私は思っていました。

【委員】

見えない部分の不平等だとか性差別のようなものとか。コロナなどもあって解雇されたり本当に困難な女性もいて、経済的格差ですとか賃金の格差ですとか、平等には程遠いなというところに行き着くので、私はあえてこの言葉でいいのかなという気がしています。

【委員】

男女平等参画は、日本の組織に合わせているというか、内閣府男女共同参画という組織がございますので、そこに合わせているという意味なのかなと思っています。

ではなぜ男女共同参画が平等参画と言っているのかというのは、沿革というか、苫小牧市のこだわりの部分というふうに理解しています。

ジェンダーは社会的な性差のことを言って、そこに着目するというのは非常に重要な観点なんですけども、男女共同参画で言われていることと完全に一致しているわけではないような気がするのですね。男女共同参画っていうのは国の政策的に、女性も社会進出していかないとこれから人口減少社会の中でやっていけないという、そういう部分の話であってジェンダーの話っていうのはまた全然違うところから出ている概念ですので、完全に一致しているわけではないのだらうなと思います。

【事務局】

これからも皆様の意見を参考にしながら我々も表現、取組を考えていきたいと思っております。

我々としてもようやく浸透してきたところで、DVについても男性からの相談も実態としてありますが、やはり断然女性の方が多かったり、社会進出というところでも格差があり、今しばらく男女平等参画というところにこだわってやっていきたいと思っているところですので、今後ともよろしく願いたします。